三木記念賞を受賞して
―医師のヒューマニティー―

清水　信義（岡山労災病院長）

◆ 略　歴 ◆

昭和15年５月18日　岡山県に生まれる
昭和41年３月　岡山大学医学部卒業
昭和46年４月～47年４月　岡山大学医学部附属病院助手
昭和49年９月　岡山大学医学部附属病院助手
平成元年５月　岡山大学医学部附属病院講師
平成２年６月　文部省在外研究員（短期）米国，ドイツ連邦共和国に留学
平成４年９月　岡山大学医学部第二外科助教授
平成５年４月　岡山大学医学部外科学第二講座教授
平成13年４月　岡山大学大学院医歯学総合研究科　腫瘍・胸部外科　教授
平成14年４月　岡山大学医学部附属病院長
平成15年10月～17年６月　岡山大学医学部・歯学部附属病院長
平成17年６月～20年３月　岡山大学理事・副学長
平成20年４月１日　独立行政法人労働者健康福祉機構　岡山労災病院院長

日本内視鏡外科学会　第16回日本内視鏡外科学会会長（2003年12月４，５日）
日本移植学会　第40回総会会長（2004年９月17-18日）
日本胸部外科学会　第58回学術集会会長（2005年10月５－７日）

第42回三木記念賞授賞式　中央が三木行治先生の胸像

去る９月１日，平成21年度第42回の三木記念賞（社会部門）を受賞いたしました．ご推薦いただいた千葉喬三学長並びに直接推挙していただきました鹿田地区の関係者の皆様には厚くお礼申し上げます．この賞の名前の由来である故三木行治先生については，年配の方々はよくご存じと思いますが，若い人には余り馴染みが無いかと思いますので少し説明させていただきます．まず，岡山県のホームページから抜粋しますと以下のような趣旨が載せられています．

「故岡山県知事三木行治氏は，昭和39年に日本人として初めて，アジアのノーベル賞といわれているマグサイサイ賞を受賞されましたが，この受賞は全県民の協力の賜物であるので，これを郷土の発展に役立てたいとの考えから，受賞金の全額を県に寄付されました．

県では，氏の私なき献身の精神と業績を末長く称え，遺志を引き継ぐため，この寄付金と県民からの浄財とによって昭和40年に岡山県三木記念事業基金を設置しました．

その運用によって，昭和43年から公共奉仕の精神をもって地域社会の発展に貢献した者を顕彰し，又は助成する岡山県三木記念事業を実施しており，平成21年度で第42回を迎えました．」

この様な趣旨で運営されている賞ですが，もう少し詳しく説明させていただきます．まず，今回の受賞を機に，故三木行治先生の追悼文集「私なき献身―三木行治」を取り寄せて読んでみました．先生は明治36年に岡山市畑鮎でお生まれになり，両親は早くして亡くなられたため純朴な継母に育てられ，大正14年に第六高等学校から岡山医科大学に入学され昭和４年に卒業されて，そして第一内科（稲田内科）に入局されています．その後，診療所などの医師として働きながら，医療政策とくに当時の我が国の結核行政に関心を持たれ，その方面の勉強をすべく昭和６年九州大学法文学部に入学され，診療を続けながら昭和９年に卒業されています．

追悼集には，小学生の時はずっと級長で成績はずば抜けて良く，また温和な性格であり喧嘩嫌いで調停役であったと書いてあります．第六高等学校を４年で修了し，岡山医科大学に進まれたがやはりクラスの総代で通し，後には全学生の総代になって周りの世話をする役割だったとのことです．昭和４年３月の卒業式の総代としての答辞は，教授や学生に感銘を与えた名演説であったとかかれています．私に興味有る記録は，学生時代に三朝の温泉研究所の開設に関わり三朝町から１万坪の土地を寄付させたのは，三木先生の理論闘

争によるところが大きかったとの記事です．また，内科医局に入ってからは，三木先生の祖父の出身地ということで香川県の本島に，やはり土地の寄贈を受け岡山大学医学部附属病院の分院を作られています．これらのことは学生の頃とまだ医師になったばかりの頃の三木先生の業績です．医師になってからも，医は仁術を地でいったような人で，自分が大学病院に紹介した患者の費用を払ったり，自分の金が無くなれば時計を出して，患者に与えたりされたとのことです．この様に全く所有欲の無かった人であったとも書かれています．

昭和14年厚生省に入られ，昭和23年から公衆衛生局長として厚生省の職員の期待を集め人望も厚かったようで，次官候補に上げられており，地元岡山からの知事立候補への要請が有ったものの厚生省への慰留の声も強く，慰留の決議文など有ったようです．しかし，岡山の地元からの再三の強力な要請で，昭和26年46歳の時に知事に当選し岡山に帰ってこられています．

以後は，岡山県の名知事として活躍され，水島工業地帯の誘致，空港（岡南空港）の設置，児島湖堤防完成，農業や酪農の振興，県庁舎の建設，岡山国体の開催など数限りないが業績ですが，医師であったことから医療福祉分野への貢献も多数有ります．全国に先駆けての実施した胃，肺などの住民検診は大きな成果を上げ，岡山は福祉の充実した県として全国に認められてきました．このおかげで私たち医師は，胃，肺などの早期のがんを治療することが出来，多くの患者さんを救命することが出来ました．フローレンス　ナイチンゲールの誕生日の５月12日を病院の日と定められたのも三木先生の発案であり，現在では全国でこの日を病院の日とし各種の行事が行われています．また，昭和36年には開眼運動を起こされ，県下にアイバンクを設置し自ら第１号の登録者となり，先生の死亡されたときには，先生の角膜が二人の女性に移植されました．先生が亡くなられたのは丁度私が医学部３年生の時の昭和39年９月であり，午後の授業の合間に，今日三木先生の病理解剖が行われているというのを聞いた記憶があります．その前年の秋のケネディ暗殺がはじめての日米衛生中継で届いたのを学園祭の最中にきいたことと共に，今でも強い記憶に残っています．

三木先生の追悼集には，高名な方のみならず身近な人や先生にお世話になった方々の追悼文が数多く載せられていますが，特に三木先生が何かに付けお世話された方々の文は，読むほどに目頭の熱くなるものが数多くあります．診療所で一緒に働いた看護婦さん，公衆衛生局長をされていた時に届いた厚生省への手紙から縁となり，岡山県知事になっても長年お世話をされた結核の患者さん，田舎から朝日高校に入学できたが貧しくて学業が続けられないため世話になった女子学生の文など，高名な人たちの追悼文とともに胸を打ちます．

追悼集の巻頭頁には，三木先生の笑顔の写真と共に，愛唱されていたウイリアム　ブレークの詩が載っています．「ひとの悩みを　見殺しに，悲しまないで　おれようか，ひとの嘆きを　見殺しに，いたわらないですませるか，落ちる涙を　見すまして，悲しみもせず　おれようか」．親しい人の前ではごく自然に，この詩を口ずさまれていたということです．県知事としての大きな役割の背景には，医師としての深いヒューマニティが浸みこんでいたのでしょう．

今回の受賞を機に，集まった資料，いただいた本や写真などにより故三木行治先生の業績を僅かでも知ることができ改めてその偉大さに驚いています．また岡山衛生会館の三木ホールのロビーには，故三木行治先生の遺品が展示してありますが，生涯清貧を貫かれた先生らしい質素な遺品とマグサイサイ賞のメダルが展示されております．

歳月とともに，故三木行治先生の「私なき献身」の言葉と偉業が，少しずつ薄れて行くことがないようにと願うばかりです．

文　　献

1）財団法人故岡山県知事三木行治顕彰会：私なき献身　三木行治の生涯，岡山（1966）．
2）三木行治：太陽と緑と空間　三木行治随筆集，ぺりかん社，東京（1965）．
3）信朝　寛：陽は昇る，株式会社アス，東京（2000）．

平成21年11月受理
〒702-8055　岡山市南区築港緑町一丁目10-25
電話：086-262-0131　FAX：086-262-3391
E-mail：drlung@gb3.so-net.ne.jp